30amG-105

医療系大学から北海道全域へ発信した実務実習支援 ICT プラットフォーム開発プロジェクト

○二瓶　裕之[1], 和田　啓爾[1], 小田　和明[1], 中山　章[1], 唯野　貢司[1]([1]北医療大薬)

【目的】実務実習の現場で発想された教育プログラムを細部まで具現化し，かつ，人的・経済的な負担を軽減することを目指した「実務実習を支援する ICT プラットフォームの開発プロジェクト」を医療系大学から北海道全域へ発信する.

【方法】パッケージ化されたシステムやオープンソースを一切利用せずに，薬学専門教員・実務家教員・情報科学系教員が学際的なチーム体制を組み，教員自らが実務実習支援 ICT プラットフォームを開発するプロジェクトを立ち上げた．開発にあたっては，ソフトウェアのプログラミングからハードウェアの設計までの全てを手掛け，さらに，実習現場の声をフィードバックし，3 年をかけてプラットフォームを確立した．制作したプログラムは全てオープンソースとして公開し，北海道内の 3 大学(医療大/北大薬/道薬大)と実務実習に関わるすべての病院・薬局が共通で利用できる北海道全域における ICT プラットフォームへと発展させた。

【結果・考察】実務実習に必要となる機能が絞り込まれた利便性の高いプラットフォームが構築され，年間 1 万 7 千枚に上る日誌・週報の提出率は 100%，また，実習期間を通して持続性の高い利用が記録された．サーバなど必要となる機材も必要最低限のものを選択でき，導入にかかる経済的負担は大幅に削減された．さらに，運用管理にかかる人的な負担も実習期間ごとのデータベース更新のみであり，加えて，北海道地区内の 3 大学が共通プラットフォームを利用することで，実習現場の指導薬剤師の負担も軽減された．教育の現場である医療系大学から，ICT プラットフォームの開発プロジェクトを発信したことが，高い利便性と教育効果，そして，人的・経済的な負担の軽減へとつながったものと考える.